

陳 情 文 書 表			
番 号	陳 情 第 8 号	受理年月日	令和8年8月25日
件 名	自動運転実証実験の路線延伸に伴う安全性検証・住民合意形成および将来計画の明確化に関する陳情		
陳情者の 住所・氏名			
陳情の要旨	【趣旨】 三豊市におかれましては、移動手段の確保を目指し自動運転実証実験が進められておりますが、本年7月より開始された詫間駅への路線延伸にあたり、以下の通り懸念すべき課題が生じております。 1. 手続きの不備と住民対話の欠如 幹線県道および追い越し禁止区間を含む市道への延伸に際し、事前の地域住民説明会が開催されず、沿線住民や道路利用者の理解が得られず、安全行動のコンセンサスが無いまま運行が開始されました。例えば実証実験車は危険感知時には停止するだけであることの認知不足や、車両に乗っている操車者の操作に対する過度な期待など説明不足に起因する課題が顕在化しております。 2. 交通障害と安全対策の不備 最高速度 20km/h 以下での走行に対し、「1km ごとの追い越し停車」等の措置がとられているものの、追い越し禁止区間における渋滞の発生や無理な追い抜きを誘発するなど、道路交通上の安全リスクと市民生活への負荷が増大しています。特に狭隘で見通しの悪い生活道路においての安全な追い越し・追い抜き・離合の方法についての周知や指導がないまま、低速運転車両の追い越し、追い抜き、あるいは追従による渋滞が定常化しており、安全への不安が増大しております。 3. 「技術実証」への追従による「実証実験貧乏」のリスク 過疎地域における実証実験は、将来的な市民の利便性と財政負担に見合う「社会実験」として評価されるべきです。実験主体の技術開発（技術的課題の検証）に市が付き合わされた結果、安全確保を含む膨大な社会的コストを過疎自治体側が負担し続ける「実証実験貧乏」に陥ることは断じて避けなければなりません。 4. 将来計画・目算の不透明さ 本年6月定例会において複数議員から指摘された通り、本実証実験の先にある将来的な実装計画、事業性、維持コストの負担主体等の目算が市から明確に示されていません。 つきましては、市民の安全な生活環境を守り、持続可能な自治体経営を堅持するため、下記項目について採択の上、市当局へ適切な措置を求められるよう陳情いたします。 【陳情事項】 1. <u>沿線住民および道路利用者に対する説明会・公聴会の速やかな開催</u> 詫間駅延伸区間の運行状況、安全対策、および今後の運用計画について、地域住民		

との合意形成を図るための説明会およびこれまで実施してきた実証実験の地域に与える負荷を把握するための公聴会を早急に開催すること。

2. 説明会および公聴会には実証実験の実施企業にも出席を求め、過去の実験で発生したインシデントと原因分析・解決済みの対策と未解決の課題を地域住民に説明し、地域のドライバーや住民に求められる安全行動および注意点を周知すること。
3. 前述の 1. および 2. が実施され地域住民やドライバーとの安全行動のコンセンサスが確立するまで、事業者による実証実験の公道走行部分を差し止めること。
4. 第三者視点による「社会的コスト・費用対効果」の独立評価の実施
実験主体の技術検証とは切り離し、三豊市独自の立場から「自動運転の真の必要性」「安全管理・交通遅延に伴う社会的コスト」「事業性」を評価・検証する体制を構築すること。
5. 実証実験終了後の将来計画（ロードマップ）および財政見通しの開示
6 月定例会での質疑を踏まえ、実証実験の到達点、将来的な実装に向けた運行主体・市負担額等の具体的な目算を市議会および市民へ明確に示すこと。
6. 安全性が確認されるまでの実用的な交通円滑化措置の再検証
現行の「1km ごとの追い越し停車」等にとどまらず、操作者の手動による追い越し停車を行い実用的な交通円滑化を担保するとともに実証実験の精度を実用レベルで判定すること。更に朝夕のラッシュ時の運行見直しや、交通障害を発生させない安全プロトコル（実時間での運行状況表示や迂回路案内）の再構築を行うこと。